

二〇二〇年度 江戸川看護専門学校 入学試験問題

国語  
(第一回試験)

注意

1. 指示があるまで開かないこと。
2. 試験時間は五十分とする。
3. 受験番号、氏名を解答用紙に正確に記入すること。
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. その他の注意事項は、試験官の指示に従うこと。

一

①～⑤の傍線部の漢字を解答欄に書きなさい。

- ① 薬をトウヨする。
- ② 救急車でジュウトク患者が運ばれてきた。
- ③ 百日咳の予防セツシユを受ける。
- ④ 高齢化に伴い、カンワケアのニーズが高まっている。
- ⑤ カイフク手術を行う。

二

①～⑤の傍線部の読み方を、解答欄にひらがなで書きなさい。

- ① 舌下錠が処方される。
- ② インフルエンザを患う。
- ③ 日本人の死因に多い疾病はがんである。
- ④ 末梢神経障害のため、手足がしびれる。
- ⑤ 胎児を産むことを娩出という。

三

①～⑤の意味に対応する言葉を選択肢の中から選び、解答欄に番号を書きなさい。

- ① 文章を書いたり、情報を活用したりする能力のこと。
- ② 社会的・文化的につくられた、男女の性差のこと。
- ③ 一般に正しいと思われることに反する事柄、逆説のこと。
- ④ 境界や国境がないこと、また、それらが意味をなさないこと。
- ⑤ 型にはまった画一的なイメージのこと。

- 1 リテラシー
- 2 ボーダーレス
- 3 ステレオタイプ
- 4 ジェンダー
- 5 パラドックス

#### 四

次の文章をよく読んで、後の設問に答えなさい。

日本における毎年の死亡者数は、第二次世界大戦後いったんは減少し、その後しばらく横ばいだった。

1 一九八〇年代頃からは増加傾向となり、二〇〇〇年過ぎ頃に年間一〇〇万人を超えるとともに、以降はとくに急速に増加しており、二〇四〇年前後に一六七万人程度でピークを迎えるまで今後「a」イッカンして増え続けるという状況にある。

言うまでもなくこうした変化の背景にあるのは高齢化とセフトになった人口動態であり、つまり寿命の伸びを伴いつつ、特に人口が多い世代が死亡年齢を迎える前後の時期に年間死亡者数が最多に至ることになる。

思えば人口減少にしても様々な経済「b」シヒョウにしても、右肩下がりが一般的である昨今の日本において、年間死亡者数に関しては今後二〇年以上にわたって着実に増加が続くわけである。「死亡急増時代」は確かな事実であるとともに、少なくともそうした意味で、死が一層身近になる。時代を私たちは迎えつつある。

一方、特に高度成長期以降の日本社会において、「死生観の空洞化」とも呼ぶべき事態が進行してきたということを、私はこれまで論じてきた。

ここで「死生観」とは、(X) さしあたり簡潔に言えば、「私の生そして死が、宇宙や生命全体の流れの中で、どのような位置にあり、どのよ

うな意味をもっているか、についての考えや理解」とでも表されるような内容のもので、もっと簡単に「私はどこから来てどこに行くのか」という問いに対する一定の答えを与えるもの」と言ってもよい。

そうした死生観が、現在の日本社会ではほとんど空洞化しており、死の意味、2 生きることの意味やリアリティが見えなくなったり「i」希薄化しているというのが「死生観の空洞化」という言葉にこめた意味である。

このことを、私自身は自分自身の経験として、あるいは大学でゼミの学生など若い世代に接する中で痛感してきた。後者について言えば、ゼミや講義で死生観などに関するテーマを取り上げる際、多くの学生が強い関心や、場合によってはある種の「I」感のようなものを示すことを印象深く思ってきた。

そうした話題は、学校の授業など「ii」公の場で取り上げられることは少なく、また（いかに教会に定期的に通うような層が大きく減少しているとは言え）なおキリスト教あるいはそれ以外の様々な宗教における死生観に何らかの形でふれながら育っていくことが一般的である他の多くの国々に比べ、高度成長期に代表される戦後の日本においては、すべてが「経済成長」という世俗的な目標ないし関心に集約されたことから、戦前に対する反省も加わって、死生観あるいは死というテーマを正面から語ることはほとんど忌避されたのである。

(B) こうした「死生観の空洞化」という状況にある意味でもっとも深刻

な形で直面しているのは、おそらくいわゆる団塊の世代前後の層だろうと思われる。先ほど指摘したような、戦後の高度成長的な【Ⅱ】観を文字通り体現し、よくも悪くも、経済成長や、

3 この生の世界の物質的豊かさを拡大させるかという方向にひたすら邁進してきた世代だからである。

したがって全体として見ると、現在の若い世代、団塊世代前後の世代、また私のような中間的な世代も含め、生きてきた時代状況の違いはあれ、ある意味であらゆる世代が死生観とその空洞化、あるいはその再構築という課題に直面しているのが現在の日本社会であると言うこともできるだろう。

この場合、それは経済社会の変化に伴うごく自然な【c】キケツでもあり、述べてきたように、ひたすら経済成長あるいは物質的な富の拡大を追究する【Ⅲ】の時代から、世代間のつながりや、死までを含んだ生全体のより深い充足を求める「着陸」の時代への移行という構造変化と呼応しているのである。言い換えれば、死生観のありようやそれへの態度が、時代状況と深く関わっていることになる。

一方、死生観をめぐるそうしたあらたな時代への変化の【iii】兆しの一つとして、次のような例がある。

たとえばそれは『文芸春秋』の二〇一三年七月号に掲載された「二〇一三年のうらやましい死に方」という特集記事である。これは身近な家族や知人の看取りの経験等を通じての、人の死に方に関する読者

の投稿から成り立つ企画で、寄せられた投稿に目を通してコメントをまとめたのが作家の五木寛之氏だ。

【d】キヨウミ深いことにこの企画は、一九九九年に一度同様のものが行われたそうで、今回はそれに次いで二度目だという。そして印象深いのは、選者の五木氏が、一九九九年の時と比べてかなり投稿の内容、あるいはその雰囲気や傾向にかなりの変化が見られると述べている点である。

すなわち五木氏は、現在の日本はまもなく団塊世代が死を迎える時代という意味で「団塊死」の時代」という時代状況になろうとしており、「死」はいま「生」よりも【Ⅳ】感を強めている」と指摘する。

その上で、今回の読者投稿原稿を前回（一四年前）と比較して、「いま「生き方」と同じように、「逝き方」を現実の問題としてオープンに語り合えるようになってきた気配がある」と述べているのである。

また、こうした「死について語ること」への態度の変化は、ターミナルケアあるいは看取りのケアのあり方への対応の変化とも関連してくる面があると思われる。

近年の変化で印象深いのは、医師の石飛幸三氏が二〇一〇年に刊行した『平穏死』のすすめ——口から食べられなくなったらどうしますか（講談社）等の一連の書籍がベストセラーとなり、

4 胃ろうなどを含めて、できるだけ延命的な医療は控えて、穏やかな死があるいは自然な死を志向するという流れが、ひとつの明確な潮流として現れてき



問五 傍線部A「死生観の空洞化」が起こった理由として適切でないものを選択肢から選び、解答欄に番号を書きなさい。

- 1 高度経済成長期においては、物質的豊かさのみが追求されたから。
- 2 学校など、公の場で死生観を扱う授業や講義が展開されなかったから。

- 3 戦後の日本では、死に関する話題はタブーだったから。
- 4 日本には死生観にふれるような宗教が存在しなかったから。

問六 二重傍線(B)の説明として適切なものを選択肢の中から選び、解答欄に番号を書きなさい。

- 1 まもなく死を迎えようとしている団塊の世代の人々にとって、死は他人事であるということ。
- 2 団塊の世代前後の人々は、生き続けたいと思いつつ、まもなく死を迎えようとしているということ。
- 3 団塊の世代前後の人々は、自らの生や死の意味づけのしかたがはっきりとわからぬまま、まもなく死を迎えようとしているということ。
- 4 まもなく死を迎えようとしている団塊の世代の人々が、自分より若い世代に死生観を教えることができずに困っているということ。

問七 〔I〕～〔V〕に入る適切な語を選択肢の中から選び、解答欄に番号を書きなさい。

- 1 存在
- 2 世界
- 3 多様
- 4 飢餓
- 5 離陸

問八 点線部(C)を分かりやすく説明した部分を解答欄に合うように本文中から31字で抜き出しなさい。なお、句読点も一字とします。

時代

四										三		二		一		
問八	問七		問五	問四	問三		問二		問一		④	①	④	①	④	①
	V	I		X	v	i	e	a	⑤	①						
		II	問六	Y		ii		b		②						
											⑤	②	⑤	②	⑤	②
		III				iii		c		③						
												③		③		③
時代		IV				iv		d		④						

受験番号

二〇二〇年度江戸川看護専門学校 入学試験 解答用紙

**国 語** (第一回試験)

氏名

得点